

# ISO20022/SWIFTの導入に向けたプロジェクトの経過報告

2010年6月25日

SWIFT ビジネスフォーラム 2010

(株)証券保管振替機構

海野 俊一郎

# Agenda

- 金融メッセージの標準化の動向
- ISO20022とは
- ISO20022導入のメリット
- ISO20022/SWIFTNet導入に向けた検討状況
- ISO20022/SWIFTNet導入に向けたマイルストーン
- ISO20022開発活動への関与

## 金融メッセージの標準化の動向

### ✓～1990年代前半

送金(SWIFT FIN)、証券決済(ISO7775)など主要分野のみ、分野毎に標準メッセージが制定

### ✓1990年代後半～2000年代前半

FIXML、FpMLなどXMLを利用した様々な金融分野での標準メッセージの制定。証券決済はISO15022の制定。但し、標準メッセージが分立。

### ✓2000年代後半

金融分野全てをカバーするXMLメッセージの標準化の手続きを定めたISO20022が制定。

## ISO20022とは

- ✓ ISO/TC68によって制定された、金融業務で利用される通信メッセージの標準化手続に関する国際規格
- ✓ 証券分野のみならず、payment、貿易金融、外国為替、カード分野を含む広範なエリアをカバー
- ✓ 業務モデル、メッセージ・モデルの標準化を通じてメッセージ・フォーマット(XMLスキーマ)を標準化
- ✓ UMLで書かれる業務モデル、メッセージ・モデルと、XMLスキーマはISOのレポジトリ(データベース)に格納され、誰でも参照が可能
- ✓ ISO20022メッセージの開発は誰でも提案が可能

## ISO20022導入のメリット

✓プラットフォームを問わない、他のデータ形式との相互互換性が高い、などXMLの長所を活かし開発効率をあげることができる

FPL(Fix Protocol Limited)がPre-trade、Trade、Post-trade分野の開発に関与することにより、証券取引のライフサイクル全てに亘ってモデル、データディクショナリが共通化

✓Syntaxが固定的ではない＝フォーマット変更が容易

✓ISOのレポジトリに登録された業務モデル、メッセージ・モデル、XMLスキーマを参照することで開発効率をあげることができる

システム仕様の曖昧さを排除できる

更にネットワークとしてSWIFTNetを採用することによって

- ✓商品種類、取引種類を問わず同一のメッセージ・フォーマット、ひとつのネットワークで処理可能に
- ✓更に他分野、例えばコーポレート・アクションやpaymentと同一のアーキテクチャー、ネットワークで処理可能に
- ✓グローバル・システムからの直接接続が可能に
- ✓SWIFTNetのメッセージ・バリデーション、メッセージ再取得、Store & Forward機能等によるJASDECのサービス時間外での送信などが可能に

# ISO20022が目指す世界

ISO20022とモデル、データディクショナリを共通化

||

FIX ISO20022 Pre-trade, Trade

機関  
投資家

証券会社

取引所  
PTS

ISO20022 Post-trade

ISO20022 Post-trade CCP

信託銀行

決済照合  
システム

ISO20022 Collateral Management

ISO20022 Corporate Action

ISO20022 Settlement & Reconciliation

カストディ  
銀行

JSCC

JDCC  
JASDEC

## ISO20022/SWIFTNet導入に向けた検討状況

- ✓ 検討初期段階は決済照合システムへの導入を想定
- ✓ 決済照合(非居住者)小委員会においてISO20022へのマッピングの検討を実施
- ✓ 必要なものはISO15022/20022へのChange Requestとして提出
- ✓ 日本独自の慣行等についても見直し、メッセージ・フォーマットからの項目削除も実施
- ✓ 適用範囲を各振替システムに拡大
- ✓ SWIFTの協力の下、各振替システムの業務分析・メッセージのギャップ分析を実施

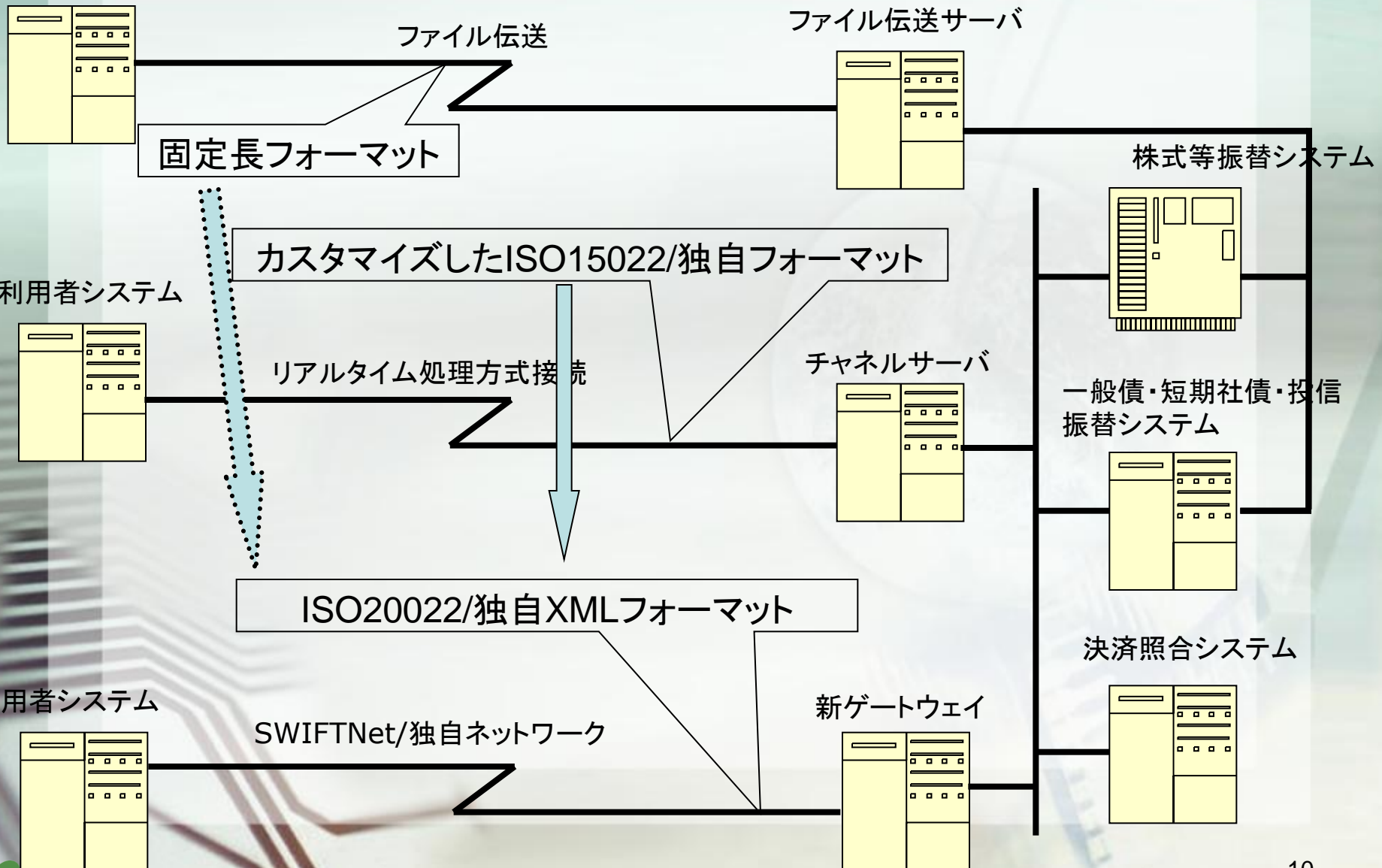
- ✓この結果を踏まえた、ユーザを交えた検討の場として昨年11月にISO20022小委員会を設置
- ✓同小委員会において商品・業務横断的な検討を実施するとともに、導入に向けてのマイルストーンを議論
- ✓決済照合(国内取引)小委員会については、Post-tradeの各メッセージのXMLスキーマの完成後検討を開始

## ISO20022/SWIFTNet導入に向けたマイルストーン

- ✓ 決済照合システム(全メッセージ)、各振替システム(リアルタイム・メッセージ)共に2014年を目途としてISO20022準拠のXMLメッセージ及びSWIFTNetを導入(一部例外あり)
- ✓ 独自XMLメッセージを補助的に利用(XMLスキーマを提供)
- ✓ 各振替システムの主要なファイル伝送メッセージについても同様の取扱い
- ✓ 現行のリアルタイム系のインターフェースは2019年まで継続して提供
- ✓ ファイル伝送は2019年以降も継続して提供
- ✓ 年2回程度移行のためのテスト環境を用意する予定

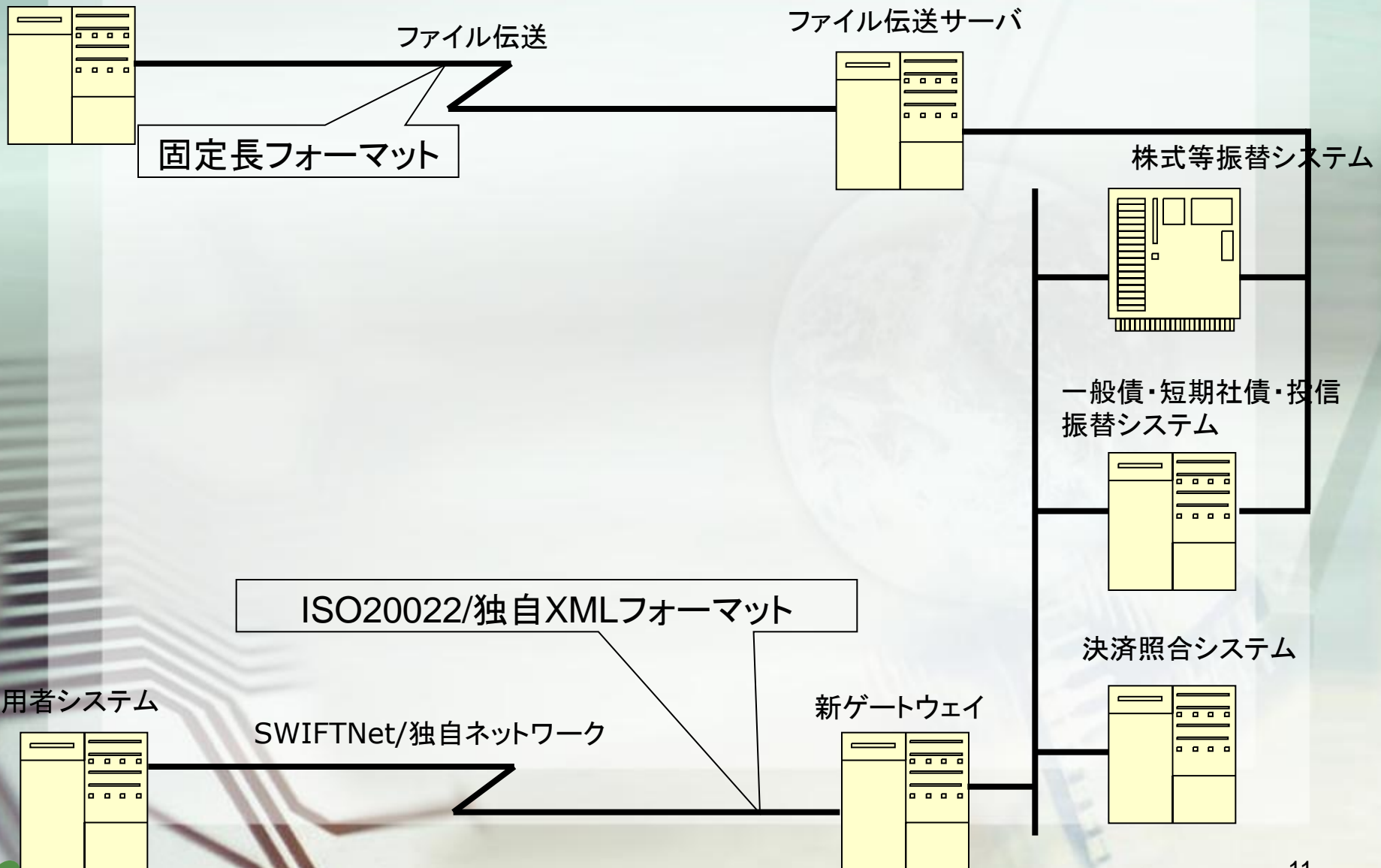
# 2014年の想定ネットワーク概念図

利用者システム



# 2019年の想定ネットワーク概念図

利用者システム



## ISO20022開発活動への関与

- 2007年9月 ISO/TC68傘下のISO20022 証券SEGへ参加
  - ✓ 情報収集し、日本のコミュニティと共有
  - ✓ 日本独自の要求を開発に反映
  - ✓ 国際標準と日本のマーケットの標準をハーモナイズ
- 以下のビジネス分野のメッセージ開発に直接関与
  - ✓ Post-trade
  - ✓ Settlement&Reconciliation
  - ✓ Replacement/Modification and Securities Settlement Transaction Counterparty Response
  - ✓ Total Portfolio Valuation

## ➤ 現状のステータス

### ➤ Post-trade

- ✓ Business JustificationのSubmitterであるSWIFT、Omgeo及びFPL、Euroclear、Anbimaと共に検討
- ✓ ISO15022のメッセージをベースとしつつ上記各組織のrequirementsを反映
- ✓ Sequence Diagram及びMessage Scopeについて合意済み
- ✓ これらに基づき現在XMLスキーマの開発中

### ➤ Settlement&Reconciliation

- ✓ Business JustificationのSubmitterであるSWIFT及び主要CSD、カストディアン、証券会社等と共に検討
- ✓ ISO15022からのreverse engineering
- ✓ 本年1月にXMLスキーマ及び関連ドキュメントを公開済み

## ➤ Replacement/Modification and Securities Settlement Transaction Counterparty Response

- ✓ Business JustificationのSubmitterであるSWIFT及びEuroclear、Clearstream、DTCCと共に検討
- ✓ S&Rメッセージを補完するメッセージ群
- ✓ XMLスキーマのドラフトを確認中
- ✓ Replacementについては開発の是非について議論

## ➤ Total Portfolio Valuation

- ✓ Business JustificationのSubmitterであるSWIFT及びISITC(米国) と共に検討
- ✓ XMLスキーマのドラフトを確認中

# 決済照合システムのISO20022対応予定表

		決済照合システム・サービス内容									
		株式	CB	国債	一般債	短期社債	債券レポ・現先	貸株	上場先物	投信基準価額	受渡代金
ISO20022	Post-Trade	■									
	Settlement & Reconciliation	■									
	Total Portfolio Valuation								■		
	Collateral Management?									■	